



ひろがれ！そうぞうりよく

いろえんぴつプロジェクト

だれもが自分の「色」で、自分の「心」を表現できるように。
豊かな想像力が「生きていくエネルギー」を育んでくれるように願いをこめて
いまを生きる子どもたち、むかし子どもだったおとなたちに贈ります。



むかし子どもだったおとなの皆さんへ

誰もが自分の色で、思い思いの未来を夢見、描けるよう願いをこめて
「いろえんぴつプロジェクト」は、はじまりました。

どんな境遇にある子どもたちにも「夢見る力」を持ってもらいたい。
子どもたち一人ひとりに、生きていくエネルギーとしての「想像力」
を失って欲しくない。そうした願いを“むかし子どもだった”おとなた
ちが共有し連携して生まれたのが「いろえんぴつプロジェクト」です。



人生に困難なことが起きた時、精神的に追いつめられた時、
人は希望を持ちにくくなりますが、現状を変えることのできる
未来を夢見るには「想像力」が必要です。

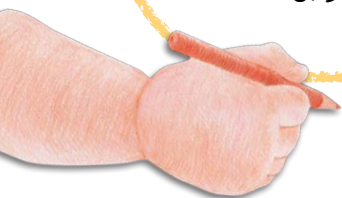
「想像力」が豊かにあれば、苦難があっても現状を変え、生き
ていくことを肯定的に捉え、他者を受け入れることもできるよ
うになるのではないのでしょうか。

しかし残念なことに、子どもたちが身近で感受性を育てる場
も機会も少なくなり、生活環境や経済状況によっては、心の成
長を育む体験にも格差が生まれています。

「いろえんぴつプロジェクト」は、さまざまな表現
活動、芸術活動を通して、生身の人間が放つエネル
ギーを伝え、子どもたちの（そしてむかし子どもだっ
たおとなたちの）想像力が「生きていくエネルギー」
を育んでくれるよう願いを込めて、創造的活動を行
なっています。



いろえんぴつプロジェクトとして行われる公演やイベントは、誰もが参加できるよう、
どんなプログラムも参加費無料で実施されています。このプロジェクトを持続可能にし、
より多くの地域、子どもたちに届けるために、ぜひサポーターになってください！



いろえんぴつプロジェクト

<https://iroenpitsu-project.jimdofree.com>



子どもたちの明日に”希望”をつながたい それが「いろえんぴつプロジェクト」のはじまりです。

きっかけは、1996年の初演以来、長きに渡ってさまざまな地で公演を行ってきた舞台劇「グレイッシュとモモ」の20周年目でした。

1996年の初演当時、生き辛さに喘ぐ子どもたちに「生きていくエネルギーとなる想像力を失わないで」と伝えたくて創作されたこの作品は、20年という時が過ぎ、時代が変わっても色あせることなく「いまの人々」に伝える力を持った作品です。

「さあ、20年目に何ができる」と、長年作品に携わって来たおとなたちは考えました。20年目の感謝の気持ちと、いま、生き辛さを抱える子どもたちへのエールをどうかたちにする？ 深刻な経済格差、生活格差により、子どもの感受性を育む環境にない家庭も増えています。さまざまな体験こそが育てる子どもたちの感性を守りたい。

そしてはじまったのが「いろえんぴつプロジェクト」です。芸術体験、表現体験を通して、その人の中に眠る想像力を引き出す活動です。どんな環境の中にあっても、生きていくエネルギーとしての「想像力」を失ってほしくない。感じる、考える、伝える、そして希望を持つことの大切さとかげがえのない、一人ひとりの「心」が出会えますように。そうした願いを込めて、プロジェクトはスタートし、2017年に第1回目の公演が実現しました。学校の体育館での「グレイッシュとモモ」公演は、地域の中で誰もがいっしょに観劇できるスタイル。体育館といえども舞台のクオリティは高いまま、観劇無料の公演です。

限られた条件の中で、連携と創意工夫がつくりあげるクリエイティブな空間。プロジェクトには多種多様な「できること」で手をあげてくれる人や団体が参加しています。

「いろえんぴつプロジェクト」の活動は、いまを生きる子どもたちを対象にしていますが、むかし子どもだったおとなたちも「子どもの仲間」です。どうぞ遠慮せずに子どもたちといっしょに、泣いたり、笑ったり、びっくりしたり、それぞれの想像力を発揮してほしいと思います。そして、できればサポーターとなっていっしょにプロジェクトを育てていただけませんか？ クリエイティブな喜びを、子どもたちとシェアしましょう！

いろえんぴつプロジェクト
プロジェクトリーダー 堤真理子



「いろえんぴつプロジェクト」の活動は3つの集団のコラボレーションから生まれました。

コスモスペース

プロジェクトの企画、広報、オリジナル商品を制作するなど、全体をプロデュースしています。

<http://cosmospace-web.com>

teamグレモモ

作品を創作した演劇集団「激弾BKYU」を中心に、趣旨に賛同した表現者が集まり創意工夫の舞台空間を創り上げます。

<http://www.bkyu.com>

認定NPO法人キーパーソン21

寺子屋事業の一環として学校と連携、会場設営、地域広報などのコーディネートを担当しています。

<http://www.keyperson21.org>



iroenpitsu project presents

2019年2月16日 (土)
中原区今井小学校体育館
開場13:30 開演14:00
*子どももおとなも観劇無料です

学校の体育館が みんなの劇場になる日

子どもたちが、家族が、
近所のみんなが、いっしょに
泣いたり、笑ったり、びっくりしたり
想像力がエネルギーになる空間を
この日、つくります。
いろえんぴつプロジェクトの演劇公演
「グレイッシュとモモ」
はじまるよ。



いろえんぴつプロジェクトの趣旨に賛同し、teamグレモモのメンバーとして集結する俳優とスタッフ。彼らの表現エネルギーに触れた終演後は、毎回恒例の記念撮影。子どもたちは大はしゃぎで出演者の側に。保護者もシャッターチャンスに歓声を上げます。

この物語は、エンデが未来に託した願いを
いま
現代に生きる私たち自身の心と言葉で
次の未来につなげる”希望”です。

「グレイッシュとモモ」は、ドイツの児童文学作家ミヒャエル・エンデの「モモ」を原案に、1996年に「激弾BKYU」という演劇集団により創作された舞台劇です。初演当時、いじめや生き辛さなど、さまざまな理由で追いつめられ、不登校や自殺を選ぶ子どもが増加していました。教育現場では芸術に触れる機会が減っていく中、子どもたちに、生身の人間からの励ましを届けたい、物語を通して「あなたは必要とされている」と伝えたい、そうした想いに駆られた表現者たちの手により、この作品は生まれました。

これまでの観劇者は延べ2万人以上。「グレモモ」の愛称で現在もファンが増え続けている、知る人ぞ知る名作舞台が「グレイッシュとモモ」という作品です。



回を重ねるごとに表現する仲間が増えていく”teamグレモモ” 第3回公演はダンスラボラトリーとコラボレーション!

ダンスラボラトリーは、障がいがあってもなくてもみんなで楽しくダンスができることを目標に活動を行っています。活動拠点は川崎ですが、出張ワークショップを各地で開催しています。仲間を増やし2020年のパラリンピックエキシビションで世界中のアスリートに「おもてなし」のダンスができる事为目标に活動しています。

Facebook : <https://www.facebook.com/dancelaboratory2014/>

E-mail : dancelaboratory.since2014@gmail.com

上演日時：2019年2月16日 (土)

14:00開演 (上演時間約75分) ※開場は13:30

会場：川崎市中原区今井小学校体育館 (川崎市中原区今井西町3-18)

JR 南武線「武蔵小杉駅」、又は「武蔵中原駅」より徒歩約12分

入場料：無料

たいいくかんで

グレモモ



観劇申込：下記宛先までお申込みください

E-mai : iroenpitsuproject@gmail.com

Fax : 044-934-8902

Tel : 080-6598-7026 (担当：つつみ)

Website : <https://iroenpitsu-project.jimdofree.com>



「いろえんぴつサポーター」が増えることで、持続可能なプロジェクトとして成長し、さまざまな地域で芸術体験の場をつくることができます。



学校の体育館は、地域の誰もが足を運べる空間のひとつです。いろえんぴつプロジェクトでは、さまざまな地域の学校空間を、連携と創意工夫で芸術体験の場として活用したいと考えています。

地域の中で、誰もが芸術体験できるよう参加費無料のプロジェクトです

いろえんぴつプロジェクトは、子どもたちの（そして、むかし子どもだったおとなたちにも）「想像力」を引き出し「心の成長」を育むことに寄与する活動を行なっています。

経済格差や子どもの貧困が深刻化する昨今、感受性を育む芸術や表現活動を体験することがないまま成長していく子どもが増えていきます。

いろえんぴつプロジェクトでは、芸術体験への参加ハードルを下げるため、誰もが無料で参加できる場作りを行なっています。

このプロジェクトを持続可能にし、より多くの地域、子どもたちに届けるためには、多くの支援者の連携と創意工夫と資金が必要です。

子どもたちが「演劇」という舞台芸術にふれる機会を増やしたい

「演劇」は、関係性の芸術とも言われます。生身の人間が舞台上で表現する感情、物語に、観るものはさまざまな心の動きを経験し、共感や疑似体験を覚えます。子どもたち一人ひとりに、その子だけの「心の時間」を提供できるのが、「演劇」なのです。登場人物への感情移入は、子どもたちに自分自身のことを考え、他者を思うきっかけをつくってくれます。



子どもたちは演劇を鑑賞することにより、人とのかかわり方、自分の意見の持ち方などを考えることができます。演劇鑑賞は、学力としては測ることのできない共感力や社会性などを養うことができる絶好の機会なのです。

(引用元：「こどもまなび☆ラボ」 <https://kodomo-manabi-labo.net> [芸術にふれる/演劇]2018.10.20 より)

持続可能なプロジェクトとして育て、広げて行くために行っていること。

演劇は1回の公演でも大きな制作費がかかります。しかし、プロジェクトの趣旨に賛同するクリエイター、表現者の創意工夫と、関係団体と学校の連携によるコラボレーションで、全体の制作費を最小限にすることができています。現在、学校で公演を行うには、1公演で約70万円の制作費で実現しています。これらの制作運営資金には、個人、団体、企業からの寄付金や協賛金、オリジナルデザインの販売物の売上げが充てられています。



プロジェクトでは、趣旨に賛同するクリエイターによるイラスト、デザインで制作された、Tシャツやポストカード、バッグなどのオリジナル商品を企画販売しています。

*ご寄付、ご協賛、商品購入のお問合せは下記担当までご連絡ください。

担当/堤真理子
Tel : 080-6598-7026
E-mail : iroenpitsuproject@gmail.com

「いろえんぴつプロジェクト」についてのお問い合わせは下記まで

E-mail : iroenpitsuproject@gmail.com Tel : 080-6598-7026 (担当 : つつみ) Fax : 044-934-8902

住所 : 214-0014 川崎市多摩区登戸3402-D1アトリエちいさいうち コスモスペース 内

<https://iroenpitsu-project.iimdofree.com>